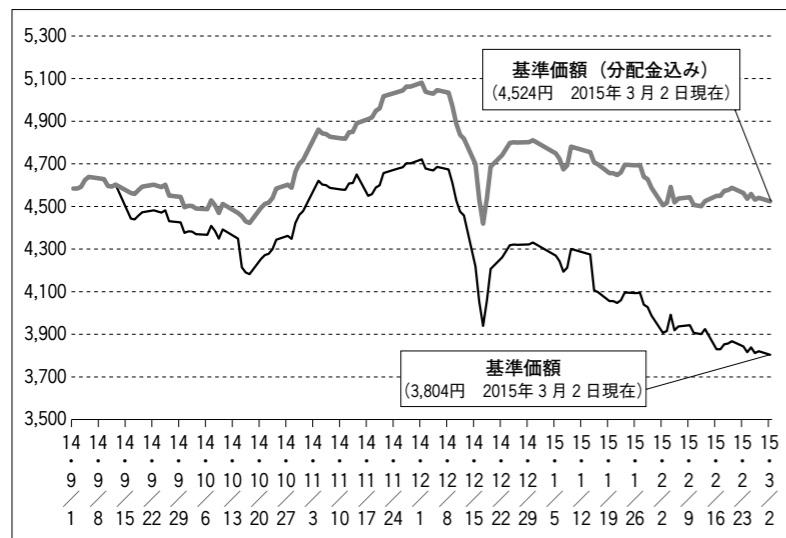


図表1 基準価額の推移



図表2 トルコリラの推移



お客さまの不安は「4ステップ」で解消しよう

投資で振り回されているお客さまから相談を受けた際は、不安の原因を明確にしていくことが必要だ。その手順とポイントを具体例を挙げて解説する。

前川FP事務所アドバンス代表
前川 貢

STEP 1 不安になった原因と保有している投資信託を取り巻く環境を確認する

Aさんが投資していたのは、日興アセットが運用する「日興ピムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド（毎月分配型）（トルコリラコース）」だった。米ドル建ての新興国ソブリン債を主体に投資を行い、対トルコリラで為替ヘッジを行う投資信託である。

Aさんは中東紛争地域のニュースを聞いたときに心配になると相談に来られた。毎月の分配金は一口120円で変わっていないが、昨年11月末ごろ4700円程度だった基準価額は3800円程度まで下落していた。分配金の内容が普通分配金から特別分配金となり、余計、心配になってきたという。

基準価額が下落した理由を運用会社が出しているマンスリー

レポートを参考に調べてみると、①新興国債券市場では、原油価格が下落する中、一部の新興国の外貨建て債務の支払い能力低下に対する懸念の高まりがマイナスマaterialになっている、②円高・トルコリラ安が進行した、③このファンドは潤沢な外貨準備高を有するブラジルやロシアなどに積極的な投資を行っており、それが現在は裏目に出ている、ことがわかった。

STEP 2 その投資信託を購入した目的・経緯を確認する

基準価額が下落した要因が確認できたので、次は、改めてAさんが投資に至った経緯と目的を確認してみた。

するとAさんは、①投資した

資金はもとと株式投資に充てていたもので、株式投資に行き詰まりを感じてこのファンドに乗り換えた、②分配金利回りが高く、トルコリラの為替水準も割高ではないと説明を受けた、③以前から欧州の近くに位置するトルコに興味を持っていてトルコが破たんする国だとは考えていない、ということだった。

つまりAさんは株式投資の代わりとして、この投資信託を選択し、この投資信託における信用リスクと為替リスクを理解したうえで投資を行っており、投資目的に合致した金融商品だったことが確認できた。

仮に、Aさんが「新興国債券を対象にした投資信託だとは理解していなかった」「新興国債券がこんなに大きな値動きをするものとは知らなかった」「トルコリラの為替が割安な水準にあるのか、割高な水準にあるのか、考えたこともない」ということであった場合は、基準価額

が下落した理由を一緒に探つても、ピンとこない可能性が高い。

今後さらに不安が高じて投資でストレスを溜める結果になりかねないので、投資目的を再度確認し、「お客さまの目的に合った金融商品はほかにないか」と

いう視点で話を伺おう。

STEP 3 保有している投資信託の商品内容と現状を確認する

保有している投資信託を取り巻く投資環境を確認し、Aさん

の投資目的と投資信託への理解度を確認したら、保有している投資信託がどういう商品であったかを、マンスリーレポートなどを参考に確認・説明したい。筆者は外国債券型投資信託の内容を確認する場合、①投資対

象は何か（この場合は米ドル建て新興国債券）、②現金の割合、③平均デュレーション、④平均最終利回り、⑤平均格付、⑥通貨選択型投資信託の場合は、為替取引によるコスト/プレミアムの、⑦国別投資比率を参考にしている。

この観点から、Aさんが保有する「日興ピムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド（毎月分配型）（トルコリラコース）」を見てみよう。

●現金比率が高い

投資効率を上げるため現金比率を少なく抑えるのが通常である。この投資信託の場合は14%と比較的現金比率が高い。投資環境の見極めが難しく、現金比率を高めて様子を見ている可能性がある。そのため、思惑が外れて相場が上昇するとほかの投資信託よりもパフォーマンスが劣る結果もあり得る。

●平均最終利回りが6・34%と高い